

令和6年能登半島地震 災害支援・寄附

1/2から 輪島市・珠洲市・石川県の代理寄附受付を開始

令和6年1月1日、能登半島で発生した震度7の地震・津波により、甚大な被害が発生しています。この度の被害を受けて、茨城県境町は「石川県輪島市」、「石川県珠洲市」および「石川県」へのふるさと納税の代理寄附の受付を開始しました。

境町の代理寄附受付

ふるさとチョイス+ふるなび+窓口寄附 R6.1.31時点

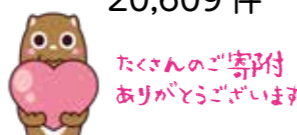
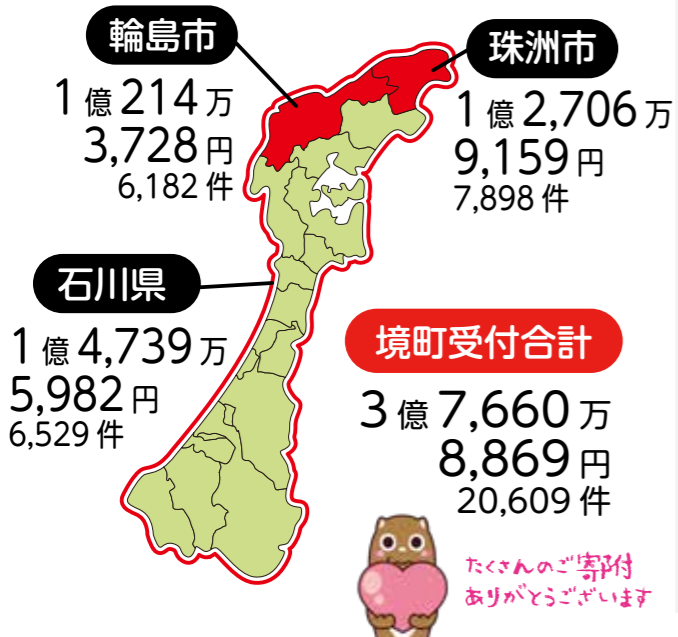
ふるさと納税代理寄附と境町

平成28年4月に発生した熊本地震を受け、茨城県境町は全国ではじめて、ふるさと納税の代理寄附の仕組みを作り、約1億1千万の寄附を熊本県に届けました。

代理寄附を始めた理由は、境町が平成27年9月の関東・東北豪雨災害です。20億以上の被害を受けた境町に多くのふるさと納税の寄附金が寄せられました。被災自治体にとって寄附金が大変ありがたい一方で、災害対応のため納税証明書を発行する事務の手が足りない、という難点がありました。この経験が被災した自治体に代わり、ふるさと納税の事務手続きを離れた自治体が行い、寄附金を被災地へ届ける「代理寄附受付」の仕組みの誕生につながっています。

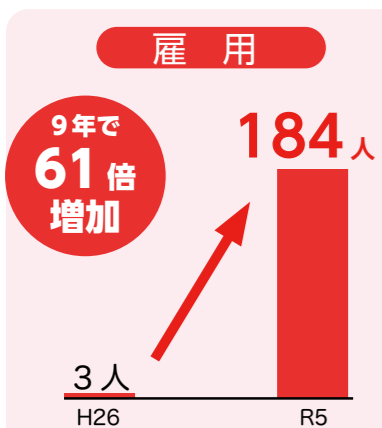


浦島熊本県知事に地震の寄附金を手渡す境町橋本町長(写真左) 湯崎広島県知事に平成30年7月豪雨の寄附金を手渡す境町橋本町長(写真左) 伊東倉敷市長に平成30年7月豪雨の寄附金を手渡す境町橋本町長(写真左)

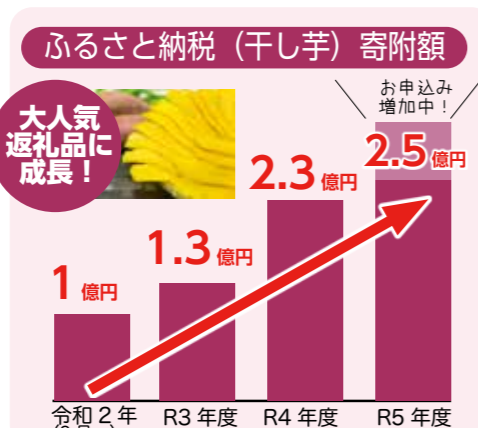


新しい特産品を開発、返礼品として大人気商品に成長！ 干し芋に計7億1千万円以上のお申込み！

境町ブランド研究開発施設「S-Lab」で開発した新たな特産品干し芋が大人気特産品に成長、令和4年度は1万8千件、2億3千万円以上のお申し込みがありました。令和5年11月より「S-Lab3rd」が稼働をはじめ干し芋人気に答える体制を強化、ふるさと納税が新しい産業と雇用を生み出しています。



※R6.2.8現在



※R6.1.31現在

Voice

寄付者の方から頂いた感想

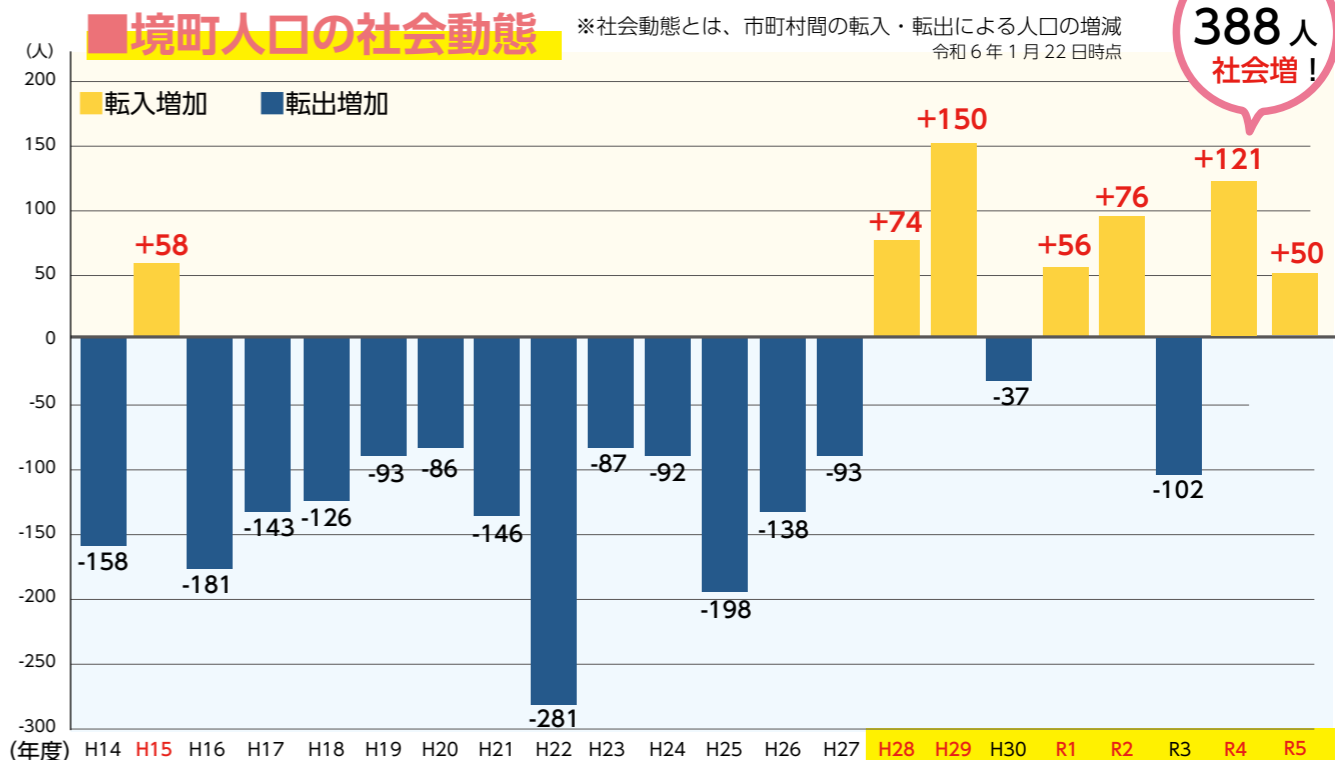
「有ればあるだけ、食べてしまいそうだったので友人にも配り、おすそ分けを楽しみました。友人にも大好評でした」

「10ヶ月の子も手づかみでくわえて離さなかつたです！キロ単位で箱ごと買いたいです！」

「手作業で作られているのですね。通販もされていて気になるものもあったので購入してみます。また来年もふるさと納税します」

手厚い移住・定住子育て支援政策の効果で人口増 境町の社会人口が増加しています

境町では、ふるさと納税の寄付金を活用し、子育て支援・英語教育など、さまざまな取組みを実施してきた効果により、転入・転出の増減を表す人口の社会増減(社会動態)について、境町へ引っ越してきた人が、境町から町外へ引っ越す人の数を上回りプラスに転じました。今後も、様々な事業を実施し、選ばれる魅力あるまちづくりを推進していきます。



8年で 388人 社会増!



常設としては日本初となる世界大会が開催可能なレベルの施設 フランスハリケーン社製 境町アーバンスポーツパークを整備

国内トップクラスの選手が境町に移住!

東京オリンピック後のレガシーとして整備し、アーバンスポーツの国際大会招致を目的に令和3年3月に境町に完成した「境町アーバンスポーツパーク」の整備費の一部にも、ふるさと納税が活用されています。この施設を目的に「境町から世界を目指したい」と、国内トップクラスのBMXフリースタイル・パークの白井伶穂選手・玲恵奈選手兄妹とご家族が境町に移住しており、インラインスケート女子世界チャンピオンの明賀芽泉選手も移住するなど、境町にスポーツ移住する方が増加中です。



境町アーバンスポーツパーク 2nd 整備中



東京五輪に使用したBMXフリースタイルパークの施設を境町に移設！整備費用の一部にふるさと納税も活用しています。

ふるさと納税活用事業を次ページからご紹介します!